
IS -飛べない鳥は地を這うケモノ-

御籠屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS - 飛べない鳥は地を這うケモノ -

【Nコード】

N3025S

【作者名】

御籠屋

【あらすじ】

ISは女性にしか操れないもの。

その前提を覆した少年『織斑一夏』を護衛する為に僻地から呼び出されたもう一人の少年

ISを操れる男は一人じゃないぜ！（色々と主人公のISはイロモノです）

なお、目指すところは二つ

一つ 原作織斑ラバーズにフラグは建てず

二つ 地上から戦おうぜ！w

です。

第0話 プロローグ的なもの

まず始めに言っておきたい、俺はノーマルだと。異常な性癖も無ければフラグ乱立体質でもないし、ましてハーレムなんて見たこともない！。

—— 周りを見渡せば、男・男・男、男しか居ないですはい。いやさ普通なら多少の関わりがある筈なんだが、なんだが！俺の育った環境は、周りには男で唯一の女性は鬼の隊長様だけの特殊部隊と来た！・・・え？いるじゃんって？あゝ、うん・・・いや、隊長は女というよりオーガツフウツ！？

「誰が・・・オーガだつて・・・？」

「隊長・・・なんで地の文が読めるんすか。読心すか？読心かなんかすか！？」というか鉄アレイとか人に向かって投げるものじゃな

「黙れ弩阿呆が」

「うわーい、なんかカタカナじゃなくて漢字な感じがsヒデブツ！？く、くそう・・・そんなんだから未だに嫁の貰い手が「ほう・・・？遺書の準備は出来ているみたいだな？」スイマセンデシタ」

—— と、開幕バーストならぬ開幕鉄アレイをぶん投げてきた方が、この部隊の隊長兼俺の保護責任者でもあるアリス・ヴォルケイン大佐。そして、俺が斉藤・S・ヴォルケイン・・・真ん中のSは鈴姫のSであつて別に顔文字じゃないからな！？あと、みんな始めは間違えるから言っておく。苗字は斉藤のほうで鈴姫が名前だ・・・
・本来苗字が真ん中なんだが、まあ、諸事情でこんな表記だ。

さて、本当なら話が本編に進む前に過去の話でもと思ったんだけど、都合により省略させていただく！・・・ま、簡単にいえば隊舎の前に捨てられてた俺をアリス隊長——アリス姉が拾ってくれたのさ。名前は籠の中に入ってたそうな。

けど・・・なあ・・・捨てられてた隊舎、今まさに居るここだけ。こつて周りには砂漠しか無いし近くの町まで30kmくらいあるんですけど・・・ほんと、どうやってココまで来たの元両親ッ！？そして、よく助かった俺（汗）ありがとう姉さん！感謝ッ！！圧倒的感謝ッ！！！！

と、このまま行くと話が進まない気がしてきたから本題に入ろう

「で、なんすか？なんか急ぎの内容だから早く行けって言われて来たけど」

「ああ、これからお前に指令内容を伝える。——本日1200（ヒトフタルマル）をもって斉藤・S・ヴォルケイン准尉を少尉に昇格。ついてはIS学園への入学しターゲットの護衛に勤めたし」

「ハッ！了解しました！——で、なんで俺？」

「年齢や状況的に都合が良かったんだろうさ。まあ、丁度良かったんじゃないか？軍学校は飛び級で終わってるし、何より15なのに同年代との付き合いが無さ過ぎるからな、お前は」

「ま・・・場所が場所っすからね。では・・・斉藤・S・ヴォ

ルケイン少尉、開発室に行って”アイシス”と”GW”を受領次第
出發します」

第0話 プロローグ的なもの（後書き）

勢いで始めてしまった。後悔はないっ・・・ハズ
W
W
W

設定等

斉藤・S・ヴォルケイン（さいとう・すずき・うゝ おるけいん）
本作品の主人公。階級は少尉。

本来の名前は斉藤鈴姫、男なのに姫。男の娘でも無いのに姫。愛称はすず姫

どっちを呼んでも苗字に聞こえる事に加えて女のような名前に若干コンプレックスがあるため、あえて 鈴姫をミドルネームに持っていた。

アイシス

正式名称：Artificial Intelligence
Support System

鷹司のIS【グランドウォーカー】に搭載されている女性型ヒューマノイドAI。

サイズは約30センチ、女性型、ぶっちゃけてしまえば武装神姫の神姫（開発担当の趣味）

ある意味【グランドウォーカー】の操者www

IS【グランドウォーカー】

鷹司のISでありアイシスの固有装備。

肩部に8連ミサイル砲台背部に120mm高射砲と300mm（30cm）砲、腰部にスモークディスチャージャー、脚部にはキータピラと・・・もう大人しく人型戦車名乗ったほうがいいんじゃない？といった機体（開発者は、大層、ヒルドルブが好きです）

要注意 空が飛べません、足裏15cmのホバーが限界です（面している地点から15cmなので海の上でも浮遊はします）

第1話 そんなこんなでIS学園

そんなこんなで日本に着いたぜ！はるばる来たぜなんとやらっと、
さてさて只今目的地に向けて移動してる真っ最中なのですが！

「…どうしてコウナッタ？」

『マスターが地図の確認もしないで動くからです』

大絶賛遭難中です。

あれえ？電車から降りて道を歩いてた筈なのに今いる場所は下水道
内部…。

「…なんでさ!？」

『自分が方向音痴なのをそろそろ認識して下さいね？』

「すみませんです…はあ、アイシス現在地確認」

『もうしてます』

「何から何までスマンです…orz」

『サーチ完了、現在地・IS学園前…地下ですけどね』

それは良かった、勘も捨てたもんじゃ無…え？勘に頼らずに動け？
そーなんすけどねー、普段はつい…ね？

□ ■ □

ガコン…

「よっこらせつと、ふーシャバの空気は美味いぜよつと」

『余裕ですねマスター』

「人生には余裕を持つものだぜ？」

『既に入學式も終わりに差し掛かっている時間ですが』

「H A H A H A H A、ききき気のせいじゃないかな…」

『認めましょう、そして走れ！！』

「アイサーツツ！？」

ここはもう講堂に行くより直接教室に——いや教員室が先か、とにかく急がねば、初日から遅刻…は手遅れだけど、クラスでの自己紹介タイムには間に合わせる！

く少年 激走中く

「ハア…ハア……着いた…ぜ」

『どう見ても皆さん居ますね』

入りづらいです、ハイ。

入り口の前で唸っていると背後に気配。そして振り向くよりも早く
…。

ズバンッ！！

頭にイイー撃が入りました。

「何をしている、馬鹿者」

「痛ー…誰だ…つわ織斑千冬…！」

ズバンッ

「…織斑千冬教官様でわないですか」

ズバンッ

「今は教官では無い、教師だ」

「ズバズバ叩くなよ！？脳細胞が旅立つだろうが…！」

「ほう？まだ欲しいのか？」

「スイマセン、織斑先生」

ははははは、初日から担任に土下座してるって前途多難な気がする
n…ん？担任？

「担任？」

「そうだが？」

「貴女が？YOUが？マジで？」

「ああ、真剣と書いてマジだ」

あー、悪夢だ！なんかニヤリと笑ってらっしゃるし！あは、あはは
！はあ、もう帰りたいよ姉さん。

□ ■ □

織斑千冬との出会いは、およそ2年前の13歳の頃になるか。

当時ドイツに協同訓練に出向いていたウチの部隊とドイツのIS部隊は、まとめて一人の女性が教導していた。

その女性の名を織斑千冬。第一回国際競技大会を驚異的な強さで勝ち抜き優勝した。当時いや——恐らく現在に置いても最強の名を欲しいままにしているIS操者である。第二回大会も優勝するであろうと予想というよりは寧ろ確定事項な空気が漂っていた中でのまさかの棄権、理由は誘拐された弟の救出だったらしい。

そしてその時に情報などを提供したドイツに対する借りを返す……という形での教導だそう。で、だ！その時に弟と同じ歳の俺とドイツの部隊長は”特に”目をかけて鍛えてもらった、うん、何回かお花畑を見たね！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3025s/>

I S -飛べない鳥は地を這うケモノ-

2011年10月7日23時18分発行